



イギリス留学を通して

法文学部人文学科4年 上野夏実

留学先-セントラル・ランカシャー大学 (イギリス)



- 100カ国以上の国からの学生
- Prestonにある (ManchesterとLiverpoolの間)
- 学生向けの複数の寮があり、生活しやすい環境
- 近くにはスーパーやショッピングセンターがある

やっておいて良かったこと

- ・ 学術的な単語を覚えていったこと
- ・ 日本食・調味料を持って行ったこと
- ・ 日常会話でよく使う表現を練習しておくこと
- ・ 色々な国の文化を広く浅くでも知っておくこと
- ・ 留学中の明確な目標を持つこと

やっておけば良かったこと

- ・ 洋楽をもっと聞いていくこと
- ・ 都心部以外の観光地を調べておくこと (ロンドンやマンチェスター以外)
- ・ 英語でのディスカッションの練習
- ・ 色々な国の英語の訛りを聞いておくこと

ハプニング

- 日本では経験しない類のハプニングが多々、
- ・ 電車のストライキ→予約していた列車がキャンセルに
- ・ 部屋のヒーターがつかなくなったり、冬に冷水しか出なくなったり→寮の管理センターに電話、修理の依頼をしたが復活したのは約2週間後、



↑真冬のUCLan



↑大学の寮

イギリスでの生活

〈平日〉

10:00-13:00 International Tourism

14:00-17:00 語学学校のクラス (休憩が15分程ある)

〈休日〉

1セメスターに2回長期間の休み

(勉強のためのものとクリスマスホリデー)

→それらを活用して国外へ旅行に行ったり都心部に行ったりしていた



←ビッグ・ベン (ロンドン)

寮からの景色→



○授業について

・ 講義は専門用語が多く出てきたり話すスピードが速かったり始めは大変なことの方が多かった。求められるディスカッションのレベルも高く、自分の意見を明確に伝えられず悔しい思いをした。

→授業前にスライドの予習をして行ったり想定される分野の単語を予習しておくことである程度はついていけるようになった。

・ 語学学校ではイギリスの文化を学ぶことや、エッセイを書くための講義が多く楽しく学ぶことができた。

○イベントなど

・ 大学では多くのイベントがいつも行われており多くの人と関わる機会が設けられていた。

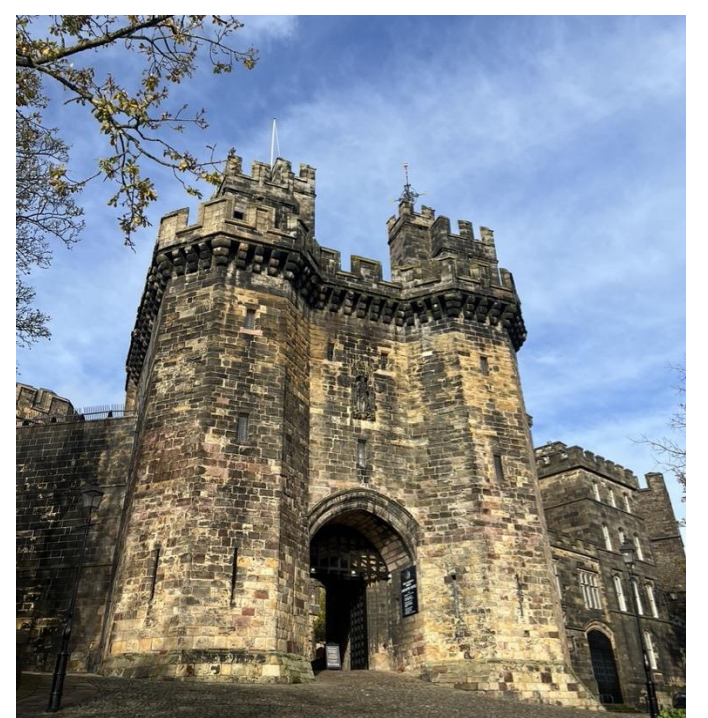
・ 後期には 'Japan Day' が開催される。

→日本語を学ぶ生徒たちと創るイベントも開催される。



←ハロウィンパーティー

授業での→ Lancaster Trip



4ヶ月間を通しての変化

○語学

大学の講義にある程度ついていけるようになった。授業中に当てられた時思ったことを色々な表現で伝えられるようになった。フラットメイトとの会話を楽しめるようになった。始めは答えられないかもという不安で会話が少し億劫だったが、最後はキッチンでの会話が日常になった。

○メンタル面

「なんとかなる」精神が強くなった。国外に一人旅をして携帯が使えなくなり、それを自分の力で乗り越えた経験が自信をつけてくれた。

「自分から」が苦手ではなくなった。人見知りで話しかけられるのを待ったり自分の世界に閉じこもりがちだったが、留学で出会った人それぞれが積極的に生きていて自分から発言したり話しかけてみることで世界が広がった。